

公開講座「子どものレジリエンスを新生児期の支援から考える」を開催

●心の発達支援研究実践センター

心の発達支援研究実践センターは、9月18日(日)、野依記念学术交流館において、公開講座「子どものレジリエンスを新生児期の支援から考える」を開催しました。この講座では、早期の家族支援の介入方法として着目されている新生児行動観察システム(NBO)について、海外から第一線で活躍している先生を招き、日本を含めた世界各国で



公開講座の様子

の取り組みについて報告しました。

NBOの開発者であるケビン・ナーゼント氏は、「新生児期の介入のポイントについて」をテーマに、新生児と家族に対するNBOを使った実際の介入の様子についてビデオを通して講演しました。次に、産後うつや低出生体重児の親子関係の早期介入にNBOを実践的に取り入れているキャンベル・ポール氏が「トラウマを受けた子どもと親への関わり」と題して、事例を交えながら講演しました。最後に、永田雅子同センター教授が、日本における周産期からの支援の現状と課題からNBOの応用可能性について講演を行いました。当日は、93名の参加があり、心理専門職だけではなく、助産師、保健師、保育士、理学療法士など多職種が集い、それぞれの立場から見た早期支援の在り方について活発な討論が行われました。現在、日本においても虐待予防のための養育支援訪問が導入されはじめてきており、このNBOの基本的な考え方は、今後日本における超早期介入において一定の役割を果たしうる可能性があることを共有した講座となりました。

第123回防災アカデミーを開催

●減災連携研究センター

減災連携研究センターは、9月21日(水)、減災館1階減災ホールにおいて、第123回防災アカデミーを開催しました。今回は、吉野 純岐阜大学大学院工学研究科准教授が「地球温暖化時代の台風災害とその対策」と題して講演を行い、75名の参加がありました。

吉野教授は大学では唯一の天気予報を出している方で



講演する吉野教授

す。台風が専門で、講演では、地球温暖化が進むと台風の数が減る一方で、勢力が強いのが増えるという計算結果があり、将来は台風の日本上陸時の中心気圧も下がり、昭和34年の伊勢湾台風を上回る勢力で東海地方を襲う台風が出てくる可能性もあると説明がありました。その場合、名古屋港でも現在の堤防の高さを越える高潮になる可能性があり、もしそのような台風が来た時に最も重要なことは、早めの避難を心がけることです。伊勢湾台風でも早めに避難命令を出した自治体での人的被害は、それが遅れたり、出せなかった自治体に比べて、優位に少なかったという分析結果についても説明がありました。最後の砦は人間の対応とのことです。

今回の防災アカデミーは、前日に台風が日本列島の南岸を通過するというタイミングで開催されました。今年は、例年に比べて日本にやってくる台風が多く、まだまだ油断できません。台風が接近する際は、吉野教授による岐阜大学の天気予報も確認してみたいかがでしょう。気象庁の発表とかなり違う予報が出されているときは、予報そのものが難しく、どちらの精度も悪いとのことです。